

# 日常生活の困ったを解決するもつけ

**問題** 利用者のニーズに応える新しいコンビニ(もつけ)を提案する。

私はもつけを多く利用するのは学生だということに注目して調査を行った。

まず、もつけの現状は支払い方法が現金のみであり、クレジットカードを持ち始める年齢である大学生が利用するには不便を感じる。また、現金を日ごろから持ち歩く習慣がないと学外のATMまでいかなければならない。加えて、大学内で体調を崩しても痛み止めや風邪薬といったドラッグストアでも簡単に購入できるものが手に入らない。体調管理に気を付けていてもテスト期間や天候などによって突然体調を崩してしまうことがある。最後に、ドミトリーに住んでいる学生が多い中で荷物がドミトリーに届いても講義中やバイトのため不在で再配達しなくてはならないという課題がある。このように大学内で過ごすだけでも、学修以外に使用しなければいけない時間が生まれてしまう。

そこで、私は「どうしたら大学以外にかける時間を減らし、学修に使える時間を増やせるのか」という課題をたてた。大学内で過ごすだけでも、学修以外に使用しなければいけない時間が生まれてしまう。大学生は講義やサークル、バイトなど毎日忙しい生活を送っている。その中で、課題に取り組んだり、予習をしたり学修時間を確保しなければならない。そのため、学内にあるコンビニであるもつけは学修以外に割く時間を減らすためのサービスを開拓する必要があると考える。これらをかなえるために「学生ならではのニーズに応えて学修に使える時間より長くするもつけ」というコンセプトをたてた。このコンセプトから、プロダクトを3つ提案する。

1つ目は、支払い方法をキャッシュレスにも対応したレジにすることだ。教科書をまとめて買うと多額の会計になり、現金を持ち合わせていないと購入できないこともある。現金支払いしか対応していないためにATMまでお金をおろしに行く必要が出てくる。しかし、クレジットカードなどのキャッシュレス決済を使用することでATMに行かずに無駄なく支払いを済ませられる。また、支払いをするとポイントが付くものもあり支払いに使え、現金よりもお金の動きをアプリを通して把握しやすい。

2つ目は、痛み止めや風邪薬などの薬の取り扱いをすることだ。体調はいつ崩れるか予測できないが、学内で薬が購入できることですぐに対処できる。例えば、薬を飲めば収まる頭痛が症状としてある時も自分で購入すれば後の講義やサークル活動に集中できる。もつけで薬の取り扱いをすることで症状を早期に抑えられ、体調が悪い時に無駄な行動を控えることで体調が回復し

学修時間が確保できる。

3つ目は、学生あてに送られてくる荷物をもっけで受け取れるようにすることだ。特にドミトリーに住んでいると講義中の時間に荷物が届き再配達や次の日まで待たなければ届かない時がある。これは、教科書や資格勉強の参考書などすぐに欲しいものが受け取れないだけでなく、二酸化炭素の排出量も増加してしまう。自分で再配達の手続きをすることなく荷物の受け取りが可能になる。また、大学内で荷物が受け取れるため参考書や教科書を頼んでも使用したいときにすぐ受け取り使うことができる。

## 期待される効果

以上の提案した3つのサービスをもっけで開始することで得られる効果は以下のとおりである。

まず、もっけのレジをキャッシュレスに対応することで現金をおろしにいく手間が省ける。また、海外留学をした際にクレジットカードでの支払いに慣れておくことで支払いがスムーズに進む。現金よりもお金の動きを把握しやすいため大学生のうちからお金の管理をする習慣が身につく。

加えて、風邪薬や痛み止めを販売することで急激な体調不良に対応できるようになる。体調管理に気を付けても崩してしまうことは誰にでもある。そこで、学内で薬を購入できるようにすることでテスト期間や講義などに万全の体調で臨めるようになる。

最後に、必要な荷物をもっけで受け取れるようにし再配達を防げるようになる。また、教科書や参考書を学内で受け取れるのすぐに講義や自学のテキストとしてすぐに使用できるようになる。

これらのサービスをもっけで開始することで学修時間以外の無駄な時間を大幅に削減することができる。

このように大学内のコンビニであるもっけは利益を求めるだけでなく学生のニーズを満たすサービスが必要だと考える。